

# 古文学習者の苦手感に関する研究

堀 晃大\*・片 桐 史 裕\*  
(平成30年8月31日受付；平成30年11月27日受理)

## 要 旨

本研究の目的は、古文学習を疎んずることなく興味関心を持って取り組むようになるような、学習動機を喚起する授業デザインを明らかにすることである。生徒や国語教師の意識調査をもとに、学習自体が楽しくて仕方がないという「充実志向」の学習動機を喚起する授業デザインを作成した。中学校2年生国語科「扇の的」の学習で、登場人物の行動の理由や感情等を学習者自身がよく使う表現や、自身がその立場に立ったときの気持ちに置きかえて表してみるという授業をおこなない、その授業の前後で古文に対する興味関心を問う質問紙調査をおこなった。しかし、「古文が好きだ」と思う学習者の数に有意な差は出なかった。

## KEY WORDS

国語, 古文, 扇の的, 苦手感, つまずき

## 1 問題の所在

中学校学習指導要領の古典の学習のねらいでは、古典の指導について、「我が国の言語文化を享受し継承・発展させるため、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導を重視する。」とある<sup>(1)</sup>。国立教育政策研究所(2007)の「高等学校教育課程実施調査」によると、「古文は好きですか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒は23.1%であった。同じ調査での好き嫌いの比較をするために、学習者にとって普段使っている言語ではない英語の回答を見てみると「英語の勉強は好きだ」と回答した生徒が40.1%であった<sup>(2)</sup>。この結果から古典を好ましく思い、学習に取り組んでいる生徒は英語と比較すると少ないことがわかる。

学習者が古典を嫌う原因について内藤(2010)は、古典そのものにあるというよりも、その指導のあり方に問題があると考えている。さらに内藤は、導入期において学習者は古典の学習に対して歓迎しているのにもかかわらず、学年が進行するにつれ疎んじる傾向にあると述べている<sup>(3)</sup>。

杉村ら(2004)は、教員がどんな授業をおこなっているか、またはどんなことを気にして授業をおこなっているかを知るために、長野県の中学校・高等学校の教師の「古典教育意識調査」をおこなった。調査結果では、「古典の学習指導で重視していることは何ですか」という質問に対して、「関心・意欲・態度」と回答した教員は、中学校教員で15%、高等学校教員では20%であった<sup>(4)</sup>。これは同調査で「内容理解」と回答した教員が中学校教員で29%、高等学校教員で44%であることと比較すると多いとはいえない現状である。一方で同じ質問紙の中で、「古典を指導する上で気になっていることはありますか」という質問に対して、「古典の学習に関心を持たせること」という意見が多く見られた。古典に対して興味を抱かせることを気になってはいるものの、実際の授業では、内容理解が中心の授業をおこなっているという状況が見える。

市川(1995)によると、学習する上で学習者には6つの学習動機が存在するという<sup>(5)</sup>。その内容は表1の通りである。

\*上越教育大学(学校教育学系)

表1 学習者の6つの学習動機

|   | 学習動機 | 説明                       | 功利性 | 重要性 |              |
|---|------|--------------------------|-----|-----|--------------|
| 1 | 充実思考 | 学習自体が楽しくて仕方がないという動機      | 低い  | 高い  | 内容関与的, 自律的動機 |
| 2 | 訓練志向 | 学習することで頭が良くなるからおこなうという動機 | 中位  | 高い  |              |
| 3 | 実用志向 | 仕事や生活に役立つからおこなうという動機     | 高い  | 高い  |              |
| 4 | 関係志向 | 内容より周囲との関係性を重視する動機       | 低い  | 低い  | 内容分離的動機      |
| 5 | 自尊志向 | プライドや競争心からくる動機           | 低い  | 低い  |              |
| 6 | 報酬思考 | 物質的報酬を意識しているという動機        | 低い  | 低い  |              |

さらに市川は6つの学習動機を「学習内容の重要性」と「学習の功利性」という観点で、上記のようにそれらのレベルを設定している。「学習内容の重要性」とは、「学習内容そのものをどの程度重視しているか」である。「学習の功利性」とは、「学習により得られる直接的な報酬をどの程度期待しているか」である。

「学習内容の重要性」が高い「1. 充実志向」、「2. 訓練志向」、「3. 実用志向」に関して、森（2015）は、「内容関与的動機」と呼び、学習内容を習得することそのものが目的となり、学習目的と学習内容の関連性が高く、学習内容が重視されるものであると述べている。一方、「学習内容の重要性」の低い「4. 関係志向」、「5. 自尊志向」、「6. 報酬志向」を「内容分離的動機」と呼び、学習内容そのものが学習目的となっておらず、学習目的と学習内容の関連性が低く、学習内容そのものを重視していないと述べている<sup>6)</sup>。

さらに森は「内容関与的動機」は、学習内容そのものを重視しているということで、「自律的な学習動機」と述べ、生涯に渡って学習し続けようとする学習意欲として内容関与的な学習動機の重要性を指摘している。これらを踏まえ、古典学習における「内容関与的, 自律的な学習動機」は、以下の表2のようにまとめることができる。

表2 内容関与的, 自律的な学習動機

|   | 学習動機 |                 |
|---|------|-----------------|
| 1 | 充実思考 | 古典の学習自体がおもしろい   |
| 2 | 訓練志向 | 古典の学習で頭が鍛えられる   |
| 3 | 実用志向 | 古典の学習が仕事や生活に生きる |

本研究では、学習者に古典学習を「好きだ」と思わせるためには「内容関与的学習動機」を喚起させる必要があると考える。表2の学習動機のうち、どの学習動機を生じさせれば効果的な結果をもたらし、その学習動機を生じさせるためには、どのような授業デザインをすればよいのかという研究は見当たらない。

## 2 分析 (1)

### 2.1 研究の目的

各学習動機のうち、どの学習動機をもとに古文授業をおこなえば、学習者は古文を疎んずることなく興味関心を持って取り組むのかの調査をおこなう。その結果を踏まえた授業実践をおこない、その効果を検証し、学習者が古文を「好きだ」と思う授業の方策を明らかにすることを目的とする。

### 2.2 調査方法

学習者の古文の苦手感に関する記述式の質問紙調査及び、教員の古文指導に関する質問紙調査

調査時期 2017年9月～11月

調査対象 学習者：高校生110名 中学生360名 合計470名

教員：中学校・高等学校国語教師 合計12名

内容：学習者への質問内容を表3に、教員への質問内容を表4に示す。

表3 学習者に対する質問紙

|  |
|--|
| ①現在の学年を教えてください。また、高校ならコースに○を付けてください。   |
| ②現代文（説明文）は好きですか？当てはまるものに○を付けてください。またその理由を教えてください。  |
| ③古文（春はあけぼの～などの昔の書き方で書かれた文章）は好きですか？当てはまるものに○を付けてください。またその理由を教えてください。<br>はい            いいえ   |
| ④ ③で「いいえ」と答えた方に質問です。理由を下の選択肢の中から理由を選択し、あてはまるものすべてに○を付けてください。選択枝になればその他に理由を書いてください。<br>1. 文語の文法、古典のみで用いる単語を習得するのが難しい。<br>2. 古語での音読が難しい。<br>3. 当時の文化を覚えることが難しい。<br>4. 現代語に訳すことが難しい。<br>5. 古文は苦手ではない。<br>6. その他（自由記述） |
| ⑤あなたがこれまでの古文の授業でおもしろかったことや、おぼえていることなどがあれば教えてください。（自由記述）  |
| ⑥あなたが苦手な科目を好きになった場合があれば、そのきっかけがあれば教えてください。（自由記述）   |

表4 教員に対する質問紙

|   |
|---|
| ①先生が担当する校種、学年を教えてください。  |
| ②先生が古文の授業をおこなう際に実際に気を付けていることは何ですか？下の選択肢から選択し、当てはまる番号に○をつけてください。なければ、その他に記入してください。（複数選択可）<br>1. 古文の内容を学習者に興味を持ってもらう。<br>2. 古文の学習によって学習者の頭が鍛えられる。<br>3. 古文の学習が学習者の実際の生活の役に立つ。<br>4. その他（自由記述） |
| ③先生は古文の内容が学習者にとって面白いと思いますか？あてはまる方に○をつけてください。<br>そう思う            そう思わない  |
| ④先生は古文の学習によって頭が鍛えられると思いますか？あてはまる方に○をつけてください。<br>そう思う            そう思わない  |
| ⑤先生の経験上、古文学習で、実生活に生きると思いますか？あてはまる方に○をつけてください。また先生自身が役に立った経験があれば教えてください。<br>そう思う            そう思わない   |

## 2. 3 調査結果

学習者の古文の学習意欲に関するアンケート結果は表5のようになった。

表5 学習意欲に関するアンケート結果

| 古文が好き         | 古文が好きではない     | 統計分析                |
|---------------|---------------|---------------------|
| 128人<br>(27%) | 342人<br>(73%) | p=0.0000<br>(p<0.1) |

1×2の直接確率計算での検定の結果「古文が好きではない」と答えた人数が1%水準で有意に多かった。このことから、前述の「高等学校教育課程実施調査」の結果の通り、古文に対して好ましい印象を持っていない学習が多いということがわかった。

古文を好きだと回答した記述内容は表6の通りであった。

表6 「古文が好きだ」と回答した理由

| 理由                   | 人数 | 割合    |
|----------------------|----|-------|
| 1.昔の文化と比較することが面白い。   | 99 | 77.3% |
| 2.内容さえわかれば楽しい。       | 15 | 12.7% |
| 3.独特の言い回しを覚えることが楽しい。 | 14 | 10.9% |

いずれも「古文の学習自体がおもしろい」という「充実思考」に分類できる内容が多かった。それに対して古文が好きではないと回答した生徒の記述内容は表7の通りである。

表7 「古文が好きではない」とした理由

| 理由                     | 人数  | 割合    |
|------------------------|-----|-------|
| 1.今と違う文化や言葉を覚えることが難しい。 | 179 | 52.3% |
| 2.そもそも文章を読むことが嫌いである。   | 83  | 24.2% |
| 3.現代語訳に直して読むことが面倒である。  | 80  | 23.3% |

「1.今と違う文化や言葉を覚えることが難しい。」という内容関与の動機が低くなることで「好きではない」と感じている学習者が50%以上いることがわかった。

教員の立場から、古文の授業が学習者にどのような学習効果を与えていると思うか？という質問の回答は以下の通りであった。

表8 古文の授業が学習者にどのような学習効果を与えていると思うか（複数回答可）

| 質問（番号は表4の質問番号）               | 学習動機 | 「そう思う」と回答した人数 |
|------------------------------|------|---------------|
| ③先生は古文の内容が学習者にとって面白いと思いますか？  | 充実志向 | 9             |
| ④先生は古文の学習によって頭が鍛えられると思いますか？  | 訓練志向 | 10            |
| ⑤先生の経験上、古文学習で、実生活に生きると思いますか？ | 実用志向 | 6             |

学習者への調査では、表3「③古文（春はあけぼの～などの昔の書き方で書かれた文章）は好きですか？当てはまるものに○を付けてください。またその理由を教えてください。」という質問で、古文が好きだと回答した理由として、「古文学習が楽しい」という回答が多かった。これは充実思考の学習動機といえる。また古文が嫌いだと回答した生徒には学習内容が面白くないからという内容は見られず充実思考を喚起する授業内容をおこなうことは不適切ではないと言える。また、教員への調査から「充実思考」の学習動機を喚起させる授業をおこなっている人が多かったという結果から、本調査では「充実志向」の学習動機を喚起させる授業をおこなう。

## 2. 4 調査方法

2 分析(1)で立てた予想を元に、「充実志向」の学習動機を喚起させる授業をおこない、授業の前と後で学習者に対し、意識調査をおこなうことによってその効果を検証する。

調査時期 2017年11月

調査対象 上越市立中学2年生36名(質問紙調査無回答3名)

- 調査内容
- 1) 質問紙調査(プレ) 古文の苦手感に関する記述式の質問紙調査(表3と同内容)
  - 2) 調査授業 平家物語「扇の的」(5時間 各時間ごとの単元計画を表9に示す)
  - 3) 質問紙調査(ポスト) 古文の苦手感に関する記述式の質問紙調査(表3と同内容)

表9 単元計画

| 時 | 内容  |
|---|---|
| 1 | あらすじを読み、状況や登場人物を理解する。その後、グループに分かれて内容把握のためのワークシートを記入する。            |
| 2 | グループで相談して、与一の祈念を自分達が普段使っている言葉でワークシートに書く。                          |
| 3 | グループで相談して、文章中から敵である平家が与一に感嘆した理由をワークシートに書く。                        |
| 4 | グループで相談して、舞った男を射た理由をワークシートに書く。                                    |
| 5 | 全体を振り返り、与一が男を射た時の反応がどうして起こったかを、グループ内で相談し、「慈悲の心」と「武士の誇り」の視点から理解する。 |

2. 4. 1 授業内容の詳細

以下に授業で使用したワークシートとともに、授業内容の詳細を表10に示す。

表10 授業内容の詳細

《1時間目》

4人ごとの班に分かれて句点ごとに交互に音読をおこなう。  
教科書の挿絵を見る。  
登場人物や漢字、場面などを問う問題が設定されたワークシートに記入していく。  
指定された班の代表が、黒板に掲示した拡大ワークシート（ワークシート1）に割り振られた答えを書く。

⑫ 与一がもう一度扇を射ることを引き受けた理由は何ですか？  
( )

⑪ 与一が扇を射ることを一度辞退したのはなぜですか？  
( )

⑩ この場面はどこ？（地名）  
( )

⑨ 義経はどう思っって与一を見ていますか？  
( )

⑧ 与一はどのとき何歳ですか？  
( )

⑦ 義経はどのとき何歳ですか？  
( )

⑥ 何軍？  
( )

⑤ 何m？  
( m )

④ 何m？  
( m )

③ これは誰？  
( )

② これは誰？  
( )

① これは誰？  
( )

⑦ 何軍？  
( )

国語 ワークシート  
クラス ( ) 番号 ( ) 名前 ( )

**目標** 与一の置かれた状況を理解しよう。  
左の①～⑫の( )の中に当てはまる答えを書こう

ワークシート1

《2時間目》

範読の後、4人ごとの班に句読点ごとに分けて交代で音読する。  
教科書の本文を自分達の理解できる言葉で現代語に訳す。  
ここまでの内容で、自分の考えているところと似ていると思った点、自分と共感できる点、共感できない点をワークシート（ワークシート2）に記入して発表する。

南無八幡大菩薩、我が故郷の神々の日光の権現、宇都宮大明神、那須の湯泉大明神、願わくは、あの扇の的の真ん中を射させたまえ。


(例) 南無八幡大菩薩様、私の故郷の神々の、日光の権現、これを射損じれば、弓を折り、腹をかき切つて、再び人にまみえる心はありません。

いま一度本国へ帰そうとおぼしめさるならば、この矢を外させなうな。

国語 ワークシート

与一の祈念を自分の言葉でとらえよう。

クロス( ) 名前( )



・現在を生きているあなたと与一の共感できるところ、または共感できないところを書いてください。

ワークシート 2

《3時間目》

範読の後、隣の席と句点ごとに分けて交代で音読する。

前時に提出した「共感できるところ・共感できないところ」をまとめたプリントを配布し、なぜ敵である平家も感嘆したのかを話し合っ、班の中で一番有力な理由を決める。

なぜ敵である平家も感嘆したのかを後で話し合うので、今からその理由を今までの所を読んで各自で考えてみる。

自分達で見つけた理由を話し合っって一番有力な理由を決める。(ワークシート3)

**共感できるところ**

- 矢を外さないように強く思うところ。
- 自分より上の人がいうことは絶対だということ
- 外せないという緊張
- 失敗しないように願う気持ち プレッシャーがすごいところが共感できると思います。
- 神様にお願ひすること失敗しないように願いたくなる気持ち
- 失敗をしないように願いたくなる気持ちは共感できると思いました。
- お願ひを神様にたのむところ。
- 上可は怖い。神はいる。
- 上可は絶対 神頼み。
- 意思(意地?)でも当ててやるという気持ち。
- もう無理かと思った時に神に委ねるところ。
- 神頼みしているところ。
- 神様にお願ひしているところ
- 神様に祈る
- どうしようもない時は、神様に頼むところ。
- 神頼みしているところ
- 外したくない時、神に祈るのが共感できる。
- 神様にお願ひするところ。
- 外せないと言う緊張
- 神は信じていること
- 神様に願うあたりが共感できた。
- 神様にお願ひするところ。
- 神様にお願ひする所、神さまを信じている所。

**共感できないところ**

- 自害するところ
- 自害する
- 神は信じないです。
- 切腹するところ
- なぜ神様にお願ひするのか?と思った
- 神様を信じたり、神様に頼んでいるところが共感できないと思いました。
- もう無理かと思った時に神にゆだねてしまうところ。
- 地元の神に委ねてしまう所。
- 地元の神に委ねるのはわからない。
- 戦いのために扇を当てる。
- 外すだけで死ぬ。

ワークシート 3

ワークシート 4

《4時間目》

範読の後、隣同士で句読点ごとに分けて交代で音読する。

教科書を読んで、なぜ舞いを舞った人を射たのかを話し合っただけで納得した意見を挙げる。

「御定」とは誰の命令なのかの確認をし、この行動に「ひどい」と思う人と「よくやった」と思う人がいることを確認する。

なぜ舞いを舞った人を射たのかを話し合う。班の中で話し合っただけで納得できる意見を出す。(ワークシート4)

《5時間目》

前回記入した考え方を道徳心と武士の考え方に分けたマトリクスの図にまとめた物を黒板に書き、「あ、射たり」、「情けなし」と考えた人の気持ちがどこにあるかを考え紙を黒板に貼る。

当時の人々との考え方の共通する部分を黒板に貼った紙の位置をもとに確認する。

右記のワークシート5を配布し、「あ、射たり」、「情けなし」と言った人が黒板に書いたマトリクスのどの位置にいるかを話し合い、記入する。

今まで学習した部分で、誰のどの行動に共感できると思ったかを記入し、提出する。

ワークシート 5

2. 5 調査結果

表3と同内容の質問紙調査をおこなった結果は表11の通りである。(未回答除外)

表11 学習意欲に関するアンケート結果

|     | 古文が好き | 古文が好きではない | 統計結果                        |
|-----|-------|-----------|-----------------------------|
| プレ  | 9     | 23        | 両側検定<br>p=0.8238 ns (.10<p) |
| ポスト | 11    | 21        |                             |

授業実践前後のアンケートを比較して、直接確率計算1×2をおこなった。その結果「古文が好き」と回答をした学習者に有意差は見られなかった。

2. 6 考察

本研究では古文に対する苦手感や好きではないという気持ちを持つ学習者が親しみを持つようにさせる授業デザインを作ることを目的におこなった。結果として、授業の前後の意識調査では、古文を好きな生徒の有意差は見られなかった。しかし、「2 分析 (1)」の質問紙調査(表5)において、「古文が好きですか」という質問に、いいえと答えた学習者342名中、「そもそも国語が嫌い」、「そもそも長い文章を読むことが嫌い」と回答した生徒が114人いた。

本調査で取り扱った題材の学習では内容読解がポイントとなる。古文学習において、学習者の学習意欲を上昇させる、「充実志向」の学習動機を養うためには、内容読解に対して学習者に肯定的にとらえてもらう必要がある。

本研究で取り扱った「扇の的」は登場人物が多く、人間関係や、時代背景が複雑で、内容の読み取りにおいては、それらの理解が必要であった。学習者によっては読み取りが困難な題材である。さらに本研究の調査において古文学習だけではなく、国語自体が好きではないという結果がとても多かったことを考えると、まず、文章読解に対する抵抗を取り払うための授業方略を考えるべきであると考えられる。

### 3 結論

本研究は、古文学習を疎んずることなく興味関心を持って取り組むようになるような、学習動機を喚起する授業デザインを明らかにするためのものであった。古文学習に対する意識調査では、「古文は好きではない」と回答した生徒は、「好きだ」と回答した生徒よりも有意に多かった。また、「好きだ」と回答した理由や、「好きではない」と回答した理由から、「充実志向」の授業が効果的であると想定し、「古文が好きだ」と思う学習者が増えると想定した授業デザインを作成し、実施したが、有意差は出なかった。

### 4 今後の課題

授業を実施した前後で古文が好きだと回答した学習者の数に有意な差が出なかった原因として考えられることを考察する。市川（1995）の動機付けにある「充実思考」を重視した場合の指導方法として、「学習者が面白がって自ら進んで取り組めるような課題を用意する。自分自身の知識や技能の向上が実感できるようにする。」とある<sup>7)</sup>。本研究で学習者が進んで取り組めるような課題設定はおこなったが、知識や技能向上を十分に実感できるような課題を設定した授業デザインではなかったことが考えられる。

鈴木（2016）は、教科書の課題がとりわけ「扇の的」を射るために海に乗り入れた時の与一の心情に、重点が置かれているように思われる<sup>8)</sup>。と述べ、そのため内容読解に重点が置かれていると指摘している。本研究の授業内容も登場人物の心情で共感できるものを見つけ出すという観点はあったものの、それをもとに内容読解を進めていったものであったため、学習者にとって難しいものであったということが考えられる。本研究の授業では、学習者は読解した文章をもとにワークシートを用いて話し合い、授業に集中して取り組んでいた。しかし、授業後「好きだ」と回答した学習者が有意に増えなかったことから、今後は「充実志向」の授業デザインに加え、市川の言う「知識や技能向上を実感できる」授業デザイン作りが必要ではないかと考えている。

### 【引用及び参考文献】

- (1) 文部科学省：「中学校学習指導要領解説 国語編」, 2008,  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2014/04/15/1234912\\_2\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2014/04/15/1234912_2_1.pdf),  
(2018.6.19閲覧)
- (2) 国立教育政策研究所教育課程研究センター：「平成17年度 高等学校教育課程実施状況結果及び質問紙調査集計結果」, 2007,  
[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei\\_h17\\_h/h17\\_h/result\\_q115.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei_h17_h/h17_h/result_q115.pdf) (2017.11.30閲覧)
- (3) 内藤一志：「古文の学習指導の方法」全国大学国語教育学会編『新たな時代を開く 中学校・高等学校国語科研究』,  
pp.183-184, 学芸図書, 2010.
- (4) 杉村修一, 藤森裕治：「中学校・高等学校における教師の古典教育意識－長野県内アンケート調査の結果から－」, pp.3-4, 信州大学教育学部紀要, 2004.
- (5) 市川伸一：『学習と教育の心理学』, pp.20-21, 岩波書店, 1995.
- (6) 森敏昭：『21世紀の学びを創る－学習開発学の展開－』, pp.13-14, 北大路書房
- (7) 前掲書(5), pp.20-21
- (8) 鈴木恵：「古典教材の授業づくり－『平家物語』扇の的をめぐる」, pp.390-391, 日本語書記史研究会, 2016.



# Study on the weak sense of Japanese classics learner

Kota HORI\* · Fumihiko KATAGIRI\*

## ABSTRACT

The purpose of this study is to construct a learning design which inspires the learning motivation of learners to address Classical Japanese Study without disagreeable to it. We made and carry out the learning design, which inspires the 'enhancement-oriented' learning motivation, on the basis of the result of the awareness research for students and teachers. But, there was no significant difference in the numbers of learners who answered 'I like Classical Japanese Study' between preliminary-survey and post-survey.